

第2回 千曲市国土利用計画審議会 議事録

日時 平成29年9月26日(火) 午後2時

会場 更埴庁舎 第1委員会室

1. 開 会

<総合政策課長>

2. 企画政策部長あいさつ

<企画政策部長あいさつ>

3. 正副会長の互選

互選により、以下のとおり正副会長を選出

会長 中村天昭委員

副会長 金沢直美委員

<正副会長あいさつ>

4. 諮問

<岡田市長より中村会長へ諮問>

5. 会議事項

(1) 第二次国土利用計画(千曲市計画)案について

<事務局より説明>

【質疑】

委員 : 目標年次における規模の目標で、農地が108haの減となっているが、雨宮の産業団地と屋代の大型商業施設も見込んでいるものか。

また、森林の整備に関する記述があるが、山林の特に松くい虫の被害が深刻である。土砂災害の心配もあるので、早急な対策をお願いしたい。

政策推進係長 : 農地の規模の目標数値の中には雨宮地区の産業団地、屋代地区の大型商業施設も見込んでいる。

松くい虫対策については、広域的な取組みも必要と考えている。ご要望を担当課に伝達する。

企画政策部長 : 松くい虫の関係について、千曲市では現在薬剤の空中散布を取りやめているが、樹木に直接薬剤を塗るだとか、違う樹種に植え替えるなどの対策は進めている。災害に強い山林にするため、市としても国と共に力を入れてまいりたい。

委員 : 人口減を大前提とした計画と受け止めているが、これに歯止めをかけることが、施策として重要と考える。土地利用についても、様々な方策、施策が盛り込まれているものと期待しているが、いかがか。
また、3つのゾーニングについて、「農業集落共生ゾーン」とは、いわゆる田園地域という解釈でよいか。

政策推進係長 : 人口減対策について、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、ソフト的な施策を展開している。また、「千曲市立地適正化計画」において、コンパクトシティ+ネットワークの実現を目指すこととしている。
農業集落共生ゾーンについては、いわゆる田園地域というご理解でよろしいかと思う。

委員 : 上信越自動車道のスマートインターと新幹線新駅誘致については、この計画の中に記載はあるか。

政策推進係長 : 「地域別の概要 東部市街地地域」の記述の中で触れている。

委員 : コンパクトシティの形成、また多極ネットワーク型の都市形成とはどういうことか。

政策推進係長 : これまでの人口増加局面に整備してきたインフラを、今後の人口減少下において引き続き維持管理することは財政的負担が大きいため、居住誘導地域を定め、長い時間をかけてこの地域への居住を誘導することにより、インフラ維持管理に要する費用負担を軽減するというのが、コンパクトシティの考え方である。

多極ネットワーク型とは、既存の集落等を公共交通で結ぶことにより、都市地域の持つ機能を誰もが享受できるようにしようという考え方である。

企画政策部長 : このコンパクトシティという考え方を出すと誤解される部分があつて、中山間地に住んでいる方々は下りてこないとだめだと受け取られてしまいがちだが、国が全国的な視点で考えた部分もあるかと思う。我々としては、地方にもきちんと文化があつて、それが全部包含されて地域というものが成り立っており、それぞれの地域全てがあつての千曲市だという前提が大切と考えている。今ここにもうコンパクトシティ千曲市という絵があるわけではなく、これをしっかり作っていこうという考え方ということでご理解いただきたい。

委員 : 観光の関係で、観光の前段に少子高齢化とか人口減があるので、交流人口という考えで観光をとらえていくのも大事な部分だと思っている。大

きな意味での観光とは、そこにしか無いものを求めている。土地利用の中でも千曲市らしさをどうやって作っていくのかという部分で、ただ自然を残せば良いというものでなくて、手を入れなきゃいけない部分もあればそっとしておかなければいけない部分もある。その辺の考え方も活かしていただければ良いのかなと思う。それから先ほどのコンパクトシティ、どうしても今既存ストックという部分、ただ農地をつぶして産業でどんどん広げていけば良いという考え方もあるが、すでに宅地化されている部分をどうやって活かしていくかという部分にも視点を当ててもらいたい。

総合政策課長：国土利用計画は理念計画という側面がある。自然公園法も踏まえ、都市計画法も踏まえ、農業振興地域に関する整備に関する法律も踏まえながらにはなってしまうが、観光振興の部分もメリハリをつけていきたい。

委員：観光局ができて DMO という言葉ができたが、あまり浸透していないと思うので、一つのキーワードとして記載すると良いと思う。また、オール千曲という言葉を使うと全体のつながりが出てさらに良くなると思う。

総合政策課長：ご意見として承り、調整いたします。

委員：インター周辺の大型商業施設がもう当然のような話が前提で今動いている気がしてならない。優良農地は残さなきゃいけないとか難しい問題なのはわかるが、この国土利用計画にいれていいのかと思う。要は大型商業施設ができれば、当然既存の商店は廃れてくというのは今までの実績としてある。そのへんをなんとかしようかという中心市街地活性化の方の動きと相反すると思う。

総合政策課長：国土利用計画はその性格上、全ての施策間連携を念頭に置いて土地利用における方針を述べている。大型商業施設については、既存の市街地を広げていくという考え方で進んでいると聞いている。今いただいたご意見を踏まえながら、この後もパブリックコメント手続きで広く市民意見を募集し、また長野県との協議を進めていく中での修正等も出てくると思うのでその際は改めてご覧いただく。

委員：この中に新幹線の駅の誘致については市の中でも意見が分かれている。反対論も大きいと思うが、当然のごとく誘致していくんだと書かれているがこのまま載せていいのかお聞きしたい。

企画政策部長：新幹線新駅誘致期成同盟会が行った賛同署名や、同盟会の会員になっている方の数がすでに 2 万人を超えている。反対の署名数がそれに均衡し

ているという風には聞いていない。また、政策決定に至る民主的な手段としては、議会の中で新幹線新駅が必要だという事でもう4度も決議されて、市を挙げた誘致活動について予算が毎年通っており、議会と市が一体となって取組んできている。市の政策、施策として、きちんと議会で承認され担保されたものという事をご理解いただきたい。

(2) その他

<事務局より説明>

委員 : 人口の将来推計という資料について、トレンドで見るとこういう風になるのだけれども、そこに政策を加える事によってこういう風に修正される事になるというところが非常に大事だと思う。5万人の人口になるため具体的な施策はあるのか。

総合政策課長 : 「千曲市人口ビジョン」について、国立社会保障人口問題研究所が2040年まで推計すると千曲市の人口は44,978人になると推計されている。そこに合計特殊出生率を国が目指すとした2.07と同じ数字を目指し、それから政策誘導を図っていく中で上乗せをしていき、人口五万人を目指すとしている。

委員 : あくまでも目指すという事であって、具体的にこの施策によってこうなるというものがない。それを達成するためには具体的な施策をどうするのか、そこが行政だと思う。これが5万でも6万でも絵にかくのはいくらでもできる、そのへんの中身はどうなっているのかとお訊ねした。

企画政策部長 : 「千曲市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で事業をマニュアル化しており、毎年の進捗を各課から報告させ検証する作業を行っている。昨年、社会増減についてはプラスに転じた。施策を実行しその効果があるという事であれば、今やっている事業を加速させていきたいと考えている。

委員 : 検証しながらやっていくという事ですので良いのだが、いずれにしても具体的な施策の結果を十分検証していただき、新たな施策が必要であればそれを実行していただきたい。

6. その他

<事務局より説明>

7. 閉会

<企画政策部長より閉会のあいさつ>